

時間からこぼれて冬のしじみ蝶

藤田湘子

しじみ蝶は地味な蝶である。その名の通り、蜆のような形の小さな羽を小刻みに動かしながら飛んでいるのを時折見かける。その羽の色は、ちょうど蜆汁が煮立った時の夜明け色のようなうす紫をしていて愛らしい。

細やかに活発に動くしじみ蝶であるが、さすがに冬ともなればその動きは静かであろう。ほんの少しの距離を飛ばさまを見て、「時間からこぼれて」いるように見た湘子の抒情性に驚く。小動物は何の計らいもなく「時間」とかけ離れたところで生存している。人間だけが「時間」の観念に捉えられて悩みを生んだりしているのかもしれない。「秋風のうしろへまはれしじみ蝶」とともに、私の愛誦句である。

2000年 (h12作) 第十一句集『てんてん』 鑑賞・野本京